

■ 持続可能な未来へ ― 循環型ものづくりを担うリーダーたちのご紹介 ―

取締役 執行役員
経営管理部長

長友 庄一郎

事業本部
パーティクルボード事業部長
兼 営業部長

山頭 幸生



永大産業グループの脱炭素への取り組み

1 脱炭素目標と進捗

当社は、現在進行中の中期経営計画「EIDAI Advance Plan2026」において、「サステナブル経営の推進」を重点施策として掲げており、その中で「温室効果ガスの排出量削減」に取り組んでいます。

2024年11月には、国際的な環境イニシアチブであるSBT認定を取得し、その中で2032年度までにグループ全体での温室効果ガス排出量をScope1・2で50.4%削減(2022年度比)、Scope3で30.0%削減(同)という目標を掲げています。2023年度はそれぞれ27.7%減、1.7%減、2024年度はそれぞれ25.8%減、7.1%減と着実に進捗しており、木質内装建材及び木質ボードメーカーとして、商品利用による炭素固定量の拡大なども含め、サーキュラエコノミー、持続可能な社会の実現に向けて取り組みを進めています。

2 グリーン電力・再生可能エネルギーの導入

具体的な取り組み事例として、使用電力のグリーン化も推進しており、山口・平生事業所、敦賀事業所では50%、大阪事業所では100%のグリーン電力化を実施。また、2025年3月には山口・平生事業所でオンサイトPPAを導入し、年間約25万kWhの発電により、同事業所のCO2排出量が約2.2%削減される見込みです。

3 製品・技術革新による環境貢献

ENボード株式会社(静岡県駿東郡、藤本八郎社長)設立時にはグリーンローンで資金調達を行い、新型連続プレス導入によるパーティクルボード(PB)生産時のエネルギー削減やバイオマスボイラーによるCO2削減な

ど、技術革新を推進。2023年度に操業を停止した当社敦賀PB工場での生産と比較し、2023年度は12,981トン、2024年度は17,123トンのCO2削減効果を得ました。また、2025年10月からは同社で生産したPB基材を使用したフローリング『Eグリーンフロア』を新発売。環境に配慮したマテリアルリサイクル製品であることはもちろん、従来のPBフロアと比べ軽量化を図るなど、製品性能面も向上させた画期的な商品となっています。

4 炭素固定量の拡大

CO2排出量削減だけでなく、PBや木質素材を用いた内装建材など全製品を通じた炭素固定量は、2023年度で44万3,000トンCO2換算、2022年度で44万7,000トンCO2と推移し、長期的に増加傾向にあります。(P16参照)

5 社内改善活動

各製造拠点ではEPI(EIDAI Product Innovation)改善発表会を年2回開催し、優秀なアイデアを表彰。この中で積極的に生産性改善や省エネなどにも取り組み、原単位当たりのCO2排出量を削減しています。これらの取り組みの成果もあり、2022年2月には山口・平生事業所が「令和3年度 エネルギー管理優良事業者等中国経済産業局長賞」を受賞。今後も使用電力削減や生産設備の効率的運用、LED化などによるエネルギー利用効率化も積極的に進めてまいります。

6 情報開示と企業価値向上

今後も各種環境イニシアチブへの対応を通して情報開示を進め、温室効果ガス削減の取り組みを継続することで、企業価値の向上を図ってまいります。

当社のパーティクルボード事業は、1969年に敦賀事業所PB工場の操業開始からスタートしました。当時、合板の生産過程で発生する端材を有効活用する目的で始まったこの事業は、木材資源の再利用という観点から、いち早く環境配慮型のものづくりに取り組んできました。1973年には山口県の平生事業所に生産拠点を拡大し、1986年には敦賀事業所に化粧工程(二次加工・化粧シート貼り)を導入するなど、事業の発展とともに技術力の向上を図ってきました。

パーティクルボードの原料には、廃木材や間伐材など、従来は廃棄されていた木質資源を活用しています。これにより、新たな木材の伐採を抑制し、森林資源の保護に貢献しています。まさに「捨てずに活かす」というサステナブルな理念に基づいた素材であり、当社は半世紀以上に渡り、地球環境に配慮した循環型のものづくりを継続してきました。

パーティクルボード事業部はパーティクルボードの「企画」「開発」

「生産」「販売」を行っています。私たちの最重要課題は、当社グループのENボード株式会社のフル稼働と安定生産です。同社は日本最大級の生産能力と最新鋭の製造設備を誇り、高品質な製品の安定供給に向けて取り組んでいます。今後は月間生産量1万5,000トンの達成を目指し、技術とノウハウの蓄積を進めるとともに、ENボード製品のさらなる拡販に取り組んでまいります。2025年度には、低比重化を実現した高品質なパーティクルボードを基材に使用した床暖房対応フローリング『Eグリーンフロア』を発売しました。これにより、環境性能と快適性を両立した製品ラインアップの充実を図ります。

パーティクルボードの用途は置床や耐力面材にとどまらず、今後ますます多様化が進むと見込まれています。当社は、こうした市場ニーズに柔軟に対応しながら、パーティクルボード事業がグループ全体の業績拡大に寄与するよう、持続可能な成長を目指してまいります。

